

第18期（令和5年3月期）中間決算の概要

1. 連結経営成績

(単位：億円)

	令和5年 3月期 上期実績(A)	令和4年 3月期 上期実績(B)	増減		令和5年 3月期 通期見通し	令和4年 3月期 通期実績
			金額 (A-B)	率 (A-B)/(B)		
営業収益	1,874	1,706	167	9.8%	4,782	3,852
高速道路事業	1,828	1,658	170	10.3%	4,638	3,711
料金収入	1,348	1,282	65	5.1%	2,692	2,542
道路資産完成高	479	374	105	28.1%	1,944	1,166
その他収入	0	1	△0	△42.7%	1	1
関連事業	48	51	△2	△5.7%	151	148
駐車場事業	15	15	△0	△0.9%	31	31
受託事業	12	10	2	18.6%	59	59
その他の事業	20	24	△4	△19.4%	60	57
セグメント間取引消去	△3	△3	△0	-	△7	△6
営業費用	1,802	1,595	206	13.0%	4,802	3,796
高速道路事業	1,761	1,552	209	13.5%	4,670	3,667
道路資産賃借料	903	815	87	10.8%	1,824	1,665
道路資産完成原価	480	379	101	26.7%	1,989	1,187
管理費用等	377	357	20	5.8%	856	815
関連事業	43	46	△2	△6.3%	139	134
駐車場事業	12	12	0	0.5%	24	25
受託事業	12	11	1	15.2%	57	56
その他の事業	18	23	△4	△19.7%	57	52
セグメント間取引消去	△3	△3	△0	-	△7	△6
営業利益(△は損失)※1	71	110	△39	△35.3%	△20	56
高速道路事業(△は損失)	66	105	△39	△36.9%	△32	43
関連事業	4	4	△0	△0.5%	12	13
経常利益(△は損失)	73	112	△39	△34.7%	△17	60
中間(当期)純利益(△は損失)※2	58	91	△32	△36.0%	△24	45

- 当中間連結会計期間の営業収益は1,874億円（前年同期比167億円増）、営業利益は71億円（前年同期比39億円減）、経常利益は73億円（前年同期比39億円減）、中間純利益は58億円（前年同期比32億円減）

※1 営業利益(△は損失)は、高速道路事業の利益剰余金を活用した、安全対策やサービス高度化に資する事業に伴う損失を含む

※2 中間(当期)純利益(△は損失)は、親会社株主に帰属する中間(当期)純利益を記載



2. 事業セグメント別の損益状況

(1) 高速道路事業

- 高速道路事業の営業収益は、前年同期比 170 億円増の 1,828 億円
 - ◇ 利用交通量は、前年同期比 7.8%増の 98.4 万台/日（前年同期は 91.3 万台/日）
 - ◇ 料金収入は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策である行動制限の緩和による利用交通量の回復に伴い、1,348 億円（前年同期比 65 億円増）
 - ◇ 独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構（以下「機構」といいます。）への資産引渡しに伴う道路資産完成高は、479 億円（前年同期比 105 億円増）
- 高速道路事業の営業費用は、前年同期比 209 億円増の 1,761 億円
 - ◇ 道路資産賃借料は、機構との協定に定める賃借料の増加などにより、903 億円（前年同期比 87 億円増）
 - ◇ 道路資産完成原価（安全対策・サービス高度化積立金※活用事業 0.5 億円を含む）は、480 億円（前年同期比 101 億円増）
- ※ 平成 29 年 5 月の厚生年金基金代行返上に伴う特別利益の高速道路事業分 142 億円について、高速道路利用者の安全性・快適性の向上に資する施策に活用することを目的として、第 13 回定時株主総会（平成 30 年 6 月 26 日開催）において積み立てたもの
- 以上の結果、高速道路事業の営業利益は、前年同期比 39 億円減の 66 億円
 - ◇ 実績料金収入が計画料金収入を上回ったこと及び管理費用の上期特性※の影響により、営業利益を計上

※ 補修工事等の完成が下半期に多いことから管理費用については下半期が上半期よりも大きくなる傾向にあること

(2) 関連事業（駐車場事業・受託事業・その他の事業）

- 駐車場事業の営業収益は、大口契約者の解約等により、前年同期比 0.1 億円減の 15 億円
- 受託事業の営業収益は、国、地方公共団体等からの受託工事の出来高の増加等により、前年同期比 2 億円増の 12 億円
- その他の事業※の営業収益は、前期に川口ハイウェイオアシス整備事業を行ったこと等により、前年同期比 4 億円減の 20 億円
- ※ その他の事業は、休憩所等事業・高架下賃貸施設事業・技術コンサルティング事業等から構成
- 以上の結果、関連事業の営業利益は、前年同期並みの 4 億円

3. 第 18 期（令和 5 年 3 月期）通期見通し

令和 4 年度の営業収益は、高速道路事業において料金収入が 2,692 億円、道路資産完成高が 1,944 億円、その他関連事業等の収益と合わせて 4,782 億円を見込んでいます。この結果、営業損失は 20 億円（高速道路事業の利益剰余金を活用した、安全対策やサービス高度化に資する事業に伴う損失 44 億円を含む）、経常損失は 17 億円、当期純損失は 24 億円を見込んでいます。

(参考) 個別経営成績

(単位：億円)

	令和5年 3月期 上期実績(A)	令和4年 3月期 上期実績(B)	増減		令和5年 3月期 通期見通し	令和4年 3月期 通期実績
			金額 (A-B)	率 (A-B)/(B)		
営業収益	1,851	1,688	162	9.6%	4,721	3,804
高速道路事業	1,828	1,658	170	10.3%	4,638	3,711
料金収入	1,348	1,282	65	5.1%	2,692	2,542
道路資産完成高	479	374	105	28.1%	1,944	1,166
その他収入	0	1	△0	△42.7%	1	1
関連事業	22	30	△7	△25.7%	83	93
駐車場事業	6	6	0	0.9%	12	12
受託事業	12	10	2	18.6%	59	59
その他の事業	3	13	△9	△73.8%	11	22
営業費用	1,785	1,584	200	12.7%	4,760	3,772
高速道路事業	1,764	1,555	208	13.4%	4,680	3,682
道路資産賃借料	903	815	87	10.8%	1,824	1,665
道路資産完成原価	480	379	101	26.7%	1,989	1,187
管理費用等	379	360	19	5.4%	866	829
関連事業	21	29	△7	△25.4%	80	90
駐車場事業	5	5	0	8.7%	11	12
受託事業	12	11	1	15.9%	58	57
その他の事業	3	12	△9	△75.4%	9	19
営業利益(△は損失)※	65	103	△38	△36.8%	△39	32
高速道路事業(△は損失)	64	102	△37	△36.8%	△42	28
関連事業	0	1	△0	△34.2%	3	3
経常利益(△は損失)	71	111	△40	△36.1%	△33	40
中間(当期)純利益(△は損失)	59	94	△35	△37.4%	△35	34

※ 営業利益(△は損失)は、高速道路事業の利益剰余金を活用した、安全対策やサービス高度化に資する事業に伴う損失を含む

- ◆ 本資料に記載されている通期見通しの数値は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ◆ 端数処理の関係により合計が一致しない場合があります。